

J R 西労組第29回定期中央本部大会 中央執行委員長挨拶(要旨)

J R 西労組組合員の皆さんのご努力によって、J R 西日本グループは堅調な経営動向にある。2016年度決算では、減収減益の通期予想を覆して、単体では増収減益の決算となった。組合員と家族の努力に報いる公正な分配の確保にも全力をあげることとする。

さて、昨年12月6日にはJ R 西労組結成25周年を、本年4月1日にはJ R 西日本が発足30周年の節目を迎えた。今日、J R 西労組が94%の組織率のうえに、安定した雇用、労働条件、労使関係を享受できているのは、先輩方の労苦と社会の理解や支援の賜物であることを忘れてはならない。そして、こうした地位や環境が当たり前のように、安全を

基礎に、労使の健全な発展を通じ、組合員と家族の雇用や生活を守り、社会への貢献を果たしている。J R 西労組が役割を自覚し、責任ある運動を持続、発展させていくことが求められている。こうした思いを込めて、本大会でJ R 西労組「次代の運動指針」を提起する。国鉄入社世代のベテランと中堅、若手の組合員がともに仕事や組合活動をできる最終場面に近づいているからこそ、次代の責任あるJ R 西労組運動について、今こそ考え、共有し、実践することが大切だと考える。本大会の代表員の平均年齢は37・6歳、J R 入社世代が約85%を占めているが、このテーマを基調に置いて積極的に議論いただきたい。

1. 職場からの安全の確立 最重要課題である安全の確立については、引き続き、福知山線列車事故の反省と教訓を胸に刻み、責任組合として職場からの安全確立に全力で取り組む決意を明らかにする。労使の真摯な協議を経て策定した「安全考動計画2017」の実践に努め、組合員の安全に対する意識を高まり、安全対策が着実に進んできたといえる。報告文化のさらなる醸成にむけた「ヒューマンエラー非懲戒」の方針も大きな前進であると評価される。しかし、昨年後半から、線路閉鎖工事の取り扱ひ誤りなど、とくに施設や電気系統の地上で危険な事象が相次ぎ、2月11日には糸崎駅構内で見張員の協力会社社員の触死事故が発生した。

な意見や、提言と議論への参画を要請するとともに、「安全提言」の活用や、組合側からの問題提起などを通じて「安全衛生委員会」の充実、そして、職場の課題は職場で解決できる分會活動の強化などの取り組みを進めていただくようお願いする。私たちは、エラーがもたらす結果をコントロールできない。私たちが進める報告文化の醸成やリスクアセスメントの重要性を確認し、さらに取り組みを強化していかねばならぬ。 「安全考動計画2017」の最終年度にあたり、今後新計画策定の議論が進められる。具体的な課題に着目し、これまでの取り組みを検証したうえで、職場の実態を踏まえ、わかりやすく実効性のある計画となるよう労使協議を進めることとする。改めて、最前線で働く組合員の皆さんからの積極的

2. 労働力不足など、環境変化を踏まえた企画提案運動の展開 J R 西労組は、「職場のあり方提言委員会」の取り組みを進めている。本大会では、労働力不足や逼迫する要員需給の課題に向き合うとともに、ワーク・ライフ・バランス、男女平等参画、女性活躍、育児・介護支援、長時間労働や休日労働の解消など、課題の推進にむけた「働き方改革」をどう進めるかなどの問題に焦点を当てた議論を本格的にスタートさせたい。 さらに、賃金・昇進制度

3. 次代にむけた求心力のある組織と運動づくり 次代の責任あるJ R 西労組運動の実践のためには、何よりも職場活動の充実が大切である。J R 西労組の運動を伝え、組合員の意見や要望を聞くコミュニケーションを深め、全員参加で魅力と求心力があり、信頼される組織と運動を築いていくよう、改めて要請する。身近な分會活動を充実させ、職場の課題は職場で解決できる運動づくり、役員育成などを進められるよう、皆さんの積極的な取り組みをお願いする。そして、本年度はとりわけシニア・シニアリーダー組合員と女性組合員のさらなる運動への参加拡大に注力する。若手への世代交代が進む半面、今後大幅に増えるシニア・シニアリーダー組合員が、J R 西労組運動から遠ざかる傾向もみられることから、国鉄入社世代のベテランと、J R 入社世代の中堅、若手とともに運動に参画して、継承を進める環境を築くこととする。 また、女性組合員は約3

4. 政策活動と地域活性化の推進 6月17日に「トワイライトエクスプレス瑞風」が運行を開始した。山陰地方をはじめ、各地で地域活性化への大きな期待が寄せられ、運行に関わった組合員からは、沿線の自治体や住

民の皆さんの喜びと歓迎に感動したとの声を聞いている。私たちが携わる鉄道が、地域を支える大きな役割を持つことを再認識し、鉄道を活かし、バスを含めた公共交通の充実やまちづくり、地域の活性化にむけて、J R 西労組として企画提案運動を積極的に進めることとする。 「交通政策基本法」が成立して4年目になるが、公共交通網の形成やまちづくりの取り組みには地域毎に温度差がある。残念ながら、三江線は来年3月末で廃線となるが決まり、現在、新たな交通体系の整備にむけて検討が進んでいる。 J R 西労組は、かつて可部線の一部廃止に対して自治体と連携した取り組みを展開し、本年3月には廃止区間が一部復活した。こうした経験を教訓に、瑞風の運行なども活かし、日頃から地域との連携を深めて問題意識を高めて、鉄道を活かした地域活性化の取り組みを強化したいと考える。 また、J R 連合と連携して対応を進めてきた北陸新幹線の敦賀・新大阪間の建設問題については、取り組みが奏功し、与党P Tにおいて労使が主張する小浜・京都ルートが昨年末に決定

した。今後、財源確保と早期着工を求めて取り組む。このほか、着工にむけては並行在来線の問題を整理する必要がある。2022年度末の敦賀開業後に直ちに着工するためには、議論の期間は5年しかない。今後、関係各本と連携して対応を進めることとする。 5 政治参加の積極的な推進 税と社会保障、財政再建、憲法改正、安全保障と平和の問題など、私たちの生活と政治は非常に深い関わりがある。新幹線建設問題をはじめ、J R 西日本グループの経営問題と政治も密接に関係している。地方政治においては、より身近な課題について、深く関わっていることは言うまでもない。 日本は議会制民主主義の国家であり、私たちの意見を政治に反映させるには、立場や意見を共有する代弁者を議会に送り、勢力を拡大することが必要である。若手の政治意識が低いことに大いに問題意識を持たなければならぬ。地方議員とのきめ細かな連携を進めている地本も多くある。選挙だけでなく、日頃から組合員の理解や意識を高める活動の実践を要請する。

ロマンは実を結ぶ

西日本ジェイアールバス地方本部 No.211

こんにちは

西日本ジェイアールバス地方本部 大阪北分會です

平成27年度に会社発足以来の念願であったバス事業黒字化を達成し、本年度も「バス事業黒字経営定着化」と持続的な安定経営の確立に向け、安全、安定輸送の提供を指針に、組合員一丸となり、日々、奮闘しております。

激化に加えて、関越道・軽井沢にて発生したバス死傷事故に起因する、高速バスの安全性に対する信頼低下と、厳しい環境に置かれています。更に全社的に運転士の高齢化が進んでおり、大阪北分會においても、例外なく高齢化の波は、運動の継承・役員育成の弊害となっております。

飽きさせない、諦めない」を活動指針とし、組合員に対する活動の可視化と理解への深度化を図る為、機関会議の議事録・掲示物に対する工夫、インフォマーシャルコミュニケーションやレク活動の活性化が、「肝」と



快適な職場環境実現の為、5S運動の精神で、半期に一度の大掃除を行なっています



体罰管理を徹底し、この夏を乗り切ろう!

位置付け、力を注いでまいりました。しかし現状では「情熱と挫折の繰り返し」が活動のルーチンワークである」と役員共通の認識になりつつあり、この部分においては諦めています(笑) 独自の活動として、安全衛生委員会を中心に

（西バス地本発）